

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801867		
法人名	有限会社 あざみ		
事業所名	グループホーム あざみ苑 (2号館)		
所在地	〒813-0036 福岡県福岡市東区若宮4丁目2番48号	092-663-8119	
自己評価作成日	平成27年03月10日	評価結果確定日	平成27年03月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の小学校3年生との交流会が毎年恒例の行事になっており、交流会の前には職員が学校に出向き、授業の一枚を使わせていただき、認知症の病気のことや、利用者様との関わり方等をわかりやすく説明している。他にも地域の中学校や保育園との交流会が長年続いており、地域に愛されている施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年03月25日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9.10.21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11.12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	2号館 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビング等、目につきやすい場所に理念を掲示し職員全員で実践しており、日々のケアにも活かしている。			
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には進んで参加し、自施設での催しにもお誘いする等して地域の方たちとの交流を大切にしている。			
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区の小学校との交流会の機会があり、来苑前に授業の1時間を使わせて頂き認知症についての説明をしている。子供達にも先生方にも喜ばれている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に苑での取り組みやイベント等の報告を行い、出席者からの意見や要望はサービスに活かせるよう努力している。			
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは必要に応じて連絡を取り合い連携を取っている。			
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に限らずスピーチロックについても職員同士日々の業務の中で常時注意している。玄関の施錠は日常的にしている。			
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待や日々のケアのやり方など職員同士で注意し合い業務に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	2号館 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に一部の職員が参加し、学んできたことを他の職員に発表、報告することで全員が周知できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の段階から十分な説明や聞き取りを行い、サービス内容等もご理解頂いた上で入居に至っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には職員が利用者の近況をお伝えすると共にケアについてのご要望等があればお聞きし、会議等で検討しサービスにつなげている。また、こちらからの要望もご家族に聞いて頂きできる事は対応していただく。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい環境作りに努めており職員からの要望には耳を傾げできる事は迅速に対応している		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況や身体状況を把握し個々に無理のない条件で働ける様配慮している。今年度は施設長による個別の面談で個々の思いを伝える機会があった。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては年齢や経験よりもやる気を重視して選考している。入職後は個性を十分に発揮できる職場環境にあると思う。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権研修には積極的に参加し、ミーティング時に研修で学んできたことを報告し全職員が人権について理解できるように努めている。		

自己	外部	項目	2号館 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が受けたいと言う研修には積極的に参加させ、学ぶ意欲を大切にしている。研修内容によっては特定の職員を指定して学ばせ技術向上に努めている。			
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の管理者と空室状況を確認し合ったり、お互いの施設での困りごとを相談したり、お互いに協力し合いより良い施設を目指している。			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際に本人や家族の要望や心配事等を充分お聞きし、それを全職員が把握、理解したうえで本人が安心して入居できるよう努めている。入居後はまめにご家族にご本人の状況を報告している。			
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談の際にご本人の現状や困っている事等を充分お聞きし入居に至っている。入居後はご家族とこまめに連絡を取り、必要に応じてご来苑いただいたり電話で直接話して頂いたりとその方に合わせた対応をしている。			
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の様々な状況を把握したうえで、枠にとらわれないサービスを提供している。こちらでは対応できない事はご家族の協力を求めたり保険外のサービス利用も検討する。			
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様との日常の関わりを通じて共に生活する者同士の心遣いや気遣いを忘れずに関係作りをしているので自然と家族のような関係になっている。また、利用者同士も協力し合いながら生活されている。			
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お盆やお正月等、節目節目でご家族と利用者が同じ時間を共有出来る様呼びかけている。他科受診や外出もできるだけご家族の同伴をお願いしている。			

自己	外部	項目	2号館 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族や友人、知人との関係が途切れ無い様、面会や電話、手紙等は積極的に受け入れている。また、なかなか会いに来れない遠方のご家族には個別に苑便りを郵送している。</p>		
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ほぼすべての利用者が日中はリビングで過ごされるため孤立することはない。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用終了後も季節ごとのお手紙のやり取りをしたり、必要に応じて近況報告や交流をしている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いを考慮し本人本位で生活出来る様支援している。困難な場合はご家族に協力を仰ぎ本人が安心して暮らせるよう努めている。</p>		
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に本人やご家族から情報収集し、全職員が周知できるようにしている。また、新しい情報についても全職員が把握出来る様その都度申し送りしている。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者の能力や生活スタイルは全職員が把握しており、その日の気分や体調によって臨機応変に対応している。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的な担当者会議などで検討し、本人の変化に合わせてプランの変更をしている。</p>		

自己	外部	項目	2号館 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に記録し職員間で情報を共有している。介護計画作成後のモニタリングはわかりやすい様色付けしている。			
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人を支えるべくその時の状況に合わせ柔軟な支援サービスを心がけている。			
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の生涯学習や中学校の体験学習、介護ヘルパー養成機関からの実習生も受け入れている。また、ボランティアの方にも来ていただきレクリエーションを楽しむ機会もある。			
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の訪問診療を受け、急変時には家族、本人の意向を重視し主治医に相談の上対応している。			
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員は気付いた時点でその都度連絡し相談の上適切な受診や看護が受けれる様支援している。			
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と連絡を取り合いスタッフが面会に行き病院関係者と面接し情報を得て早期退院に努めている。			
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望に沿った支援を行うためにも早い時期から意向を聴き、主治医や全スタッフで話し合い方針を共有しながら適切な対応を心がけている。			

自己	外部	項目	2号館 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は提携クリニックと連携を取り迅速に対応している。また、急変時対応マニュアルを常に見れるところに置いている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練に利用者、職員全員と近隣の商店の方々も参加していただいている。また近所の24時間営業のスーパー等に災害時の避難をご協力頂ける様お願している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して常に尊厳を持って接するように心がけている。対応が悪い時は職員同士で注意合っている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意思に添える様支援しているが、職員での対応が難しい時はご家族にもご協力いただいている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にし、職員の都合で無理強いをするようなことはなく生活していただいている。食事の時間以外は思い思いに過ごされている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方はその日の気分で選んで着ていらっしゃる。出来ない方は職員が選ぶが、本人らしい服装になる様配慮している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じて席替えしたり、食事中姿勢が悪い利用者には手作りのお膳を置いたり工夫して、楽しく安全に食事が出来る様配慮している。また、テーブルとお盆拭きは利用者の役割になっている。		

自己	外部	項目	2号館 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態や持病等を把握しバランスの良い献立を心がけている。また一日を通して水分量を記録し確実に水分摂取出来る様支援している。嚥下状態に合わせたミキサー食やとろみ食にも対応している。			
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは徹底して行っている。また、週一回の歯科往診は全利用者が受診し歯科医からの指導やアドバイスを頂き個々に合ったケアを支援している。			
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し声掛けや誘導により排泄の自立に向けた支援を行っている。声掛けの際は本人の尊厳を重視し十分配慮するよう心がけている。			
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜が多く取れる献立になる様工夫している。また、水分摂取量やADLに合わせた運動等を促し、それでも便秘になってしまったら主治医の指示の元下剤を使用し調整している。			
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者が楽しく気持ちよく入浴出来る様入浴剤を利用する等工夫しながら可能な限り本人の希望で入浴していただいている。また、脱衣行為がある利用者に対しては脱ぎ始めたらそのまま入浴できるように職員同士で協力し合っている。			
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の体調や希望、精神状態に合わせて休息を取って頂いている。また利用者が不安で眠れない時等は十分話を聞き安心して眠れるよう支援している。			
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬情報を全職員が把握しており、変更があった場合は申し送りにて周知できるようにしている。また、与薬時には名前、日付等の確認を必ず行う様徹底している。			

自己	外部	項目	2号館 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者同士でトランプをするのが日課になっている方もいる。役割は個々の能力に応じて提供し日々の中で喜びや達成感を味わえるように支援している。			
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い出し等は出来るだけ利用者と一緒に行くようにしている。また、気候の良い時の散歩やピクニック等は率先して行っている。			
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が使う日用品の買い物は職員が付き添い希望の物を購入できるように支援しているが金銭管理は職員が行っている。			
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族からのお手紙やお電話はきちんと対応し本人が希望すれば手紙を書いたり電話をかけたりにしていただいている。			
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を感じることが出来る様な植物や飾りを置くように心がけている。排泄物の匂いには常に気を付けており不快感を与えない様に配慮している。また、温度や湿度も常に管理している。			
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでその人の定位置が何となく決まっておりますりそれぞれが居心地良く過ごしている様で、気分によっては居室で本や新聞を読んだりして独りで過ごす時間も自分で確保されている。			
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には新たに購入せず使い慣れた物を持ち込んで頂ける様をお願いしている。家具も居室のスペースに合えば何でもお持ちくださいとご家族にお話ししている。			
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所は場所がわかりやすい様に廊下に矢印を付けたりして工夫している。			